

SBS2008 カップ 国際ユースサッカー

アルゼンチン強さ際立つ

弱点突きゴール奪う

【アルゼンチン】アルゼンチンは主権を握りながらも、前半はオーストラリアの厚い最終ラインに手こずった。このため後半は中盤に新しい戦力を投入、これが功を奏して、オーストラリアは前半は速攻を仕掛け、後半はパスをつないで打開を図った。だが、アルゼンチンの素早い動きと読み合いのいい守りに遭って、ゴールを奪えなかった。

SBS杯国際ユースサッカー勝敗表						
アルゼンチン	日本	オーストラリア	静岡	勝5点	得点	失点
アルゼンチン	3-2	2-0	4-0	9	9	2
日本	2-3	0-0	3-2	5	5	5
オーストラリア	0-2	0-0	1-0	4	1	2
静岡	0-4	2-3	0-1	0	2	8

【オーストラリア】4・5・1の陣形で、オーストラリアは前半、攻めきれないとみると無理をせず、後半のチャンスを得て試合を決めた。守りも実に手堅かった。素早いプレスで相手の攻めを遮断、巧みに体を寄せてピンチをしのぎ、ポイントを押さえた動きが目立った。

【アルゼンチン】4・4・2の陣形で、アルゼンチンは今回の来日メンバーに欧州勢を加えて、チームを再編成し、U-20ワールド杯最終予選に臨む。この大会を通して、チームと選手個々を見て、極めることができた」とベラッソ監督は、最終予選突破への手応えを感じ取っていた。



U-19アルゼンチンU-19オーストラリア 後半11分、ゴール前で激しく競り合うアルゼンチンのメサ(左から2人目)とオーストラリアのナイドフスキ(同3人目) Ⅱエコパスタジアム

全敗にも手応え 静岡

○「今大会のために結成された静岡ユースは3戦全敗で大会を終えた。しかし、急造チームながら1学年上の日本代表に善戦するなど、確かな手応えをつかんだ。唯一の2年生として参加した大瀬(東海大翔洋高)は「突破からチャンスを作れた。自信になった」と満足以げに振り返った。

【静岡】4・4・2の陣形で、大瀬は成長していた。序盤から立て続けにゴールを奪われる展開、初戦のアルゼンチン戦での0-4の大敗の再現かと思

きのこの結果		
アルゼンチン	2-0	オーストラリア
日本	3-2	静岡

【静岡】栗本、植田が活躍。静岡は序盤に白谷(大阪)の2得点で突き放すと、静岡がFKからの2得点で反撃する展開。終始、静岡が押し気味に試合を進めたが、前半25分の青木(大宮)の決勝点を守りきった日本が2位、オーストラリアが3位、静岡が4位だった。

U-19日本代表		
3	0-1	2
0	0-2	2
0	0-2	2

浅いDFラインの裏に抜け出した白谷のドリブルシュートで先制した。10分にもされ、いったんは追いつか点を奪った。

日本 課題浮き彫りに

○「静岡ユースを破り、2勝目を挙げたU-19日本代表だったが、監督、選手に笑顔はなかった。U-20ワールドカップの出場権をかけたAFCU-19選手権まであと2カ月。日本にとっては課題が浮き彫りになった大会となった。

試合には勝ったが、内容は「どつちが年上か分からず、1学年下の選手で構成された静岡に心も向く」というのが強かった」と肩を落とした。個人技で強さを見せたFW白谷(大阪)が、牧内監督は今後の改善点相手DFの裏をつき5分、10分と立て続けにゴールを奪ったが、すぐに試合の流れを相手に引き渡す。14分、19分と同じような左サイドからのFKで2失点。「フ



U-19日本代表静岡ユース 前半5分、先制ゴールを決める日本の白谷 Ⅱエコパスタジアム

田)。日本の弱点が垣間見え、日本に残された時間は少ない。



U-19日本代表静岡ユース 前半19分 右CKのボールに静岡の植田が頭で合わせ2点目とするⅡエコパスタジアム

【オーストラリア】4・5・1の陣形で、オーストラリアは前半、攻めきれないとみると無理をせず、後半のチャンスを得て試合を決めた。守りも実に手堅かった。素早いプレスで相手の攻めを遮断、巧みに体を寄せてピンチをしのぎ、ポイントを押さえた動きが目立った。

【アルゼンチン】4・4・2の陣形で、アルゼンチンは今回の来日メンバーに欧州勢を加えて、チームを再編成し、U-20ワールド杯最終予選に臨む。この大会を通して、チームと選手個々を見て、極めることができた」とベラッソ監督は、最終予選突破への手応えを感じ取っていた。

ドからのニアサイドへのはないと格上相手にも手応えを口にした。急造チームは今大会で解散するが、個々の選手が得たものは大きい。10番を背負った竹内涼は「世界や日代表相手に通用する部分はない部分があった。水商高が言え、慣れないサイドバックに入った岡選手権に向けてチームに伝えたい」と前を向いた。